

☆「交流及び共同学習」に取り組む際に

「交流及び共同学習」って、特別支援学校との間で行われる学習ですか？そして、どんな意義があるの？



それだけではなく、特別支援学級と通常の学級との間で行われる学習のこともいます。また、双方にとって次のような意義があります。

【交流及び共同学習の意義】

特別支援学級に在籍する障がいのある児童生徒にとっても、障がいのない児童生徒にとっても、共生社会の形成に向けて、経験を広め、社会性を養い、豊かな人間性を育てる上で、大きな意義があり、多様性を尊重する心を育むことができます。

《身近な子どもたちにとって具体的には？》

(例)・一人一人の違いを認め合い、それぞれが精一杯努力することの尊さを学ぶ。

- ・仲間として互いに認め合い思い合う心を育む。
- ・集団活動を通して社会性を育む。
- ・豊かな学習集団の中で学習することで、持てる力を最大限に伸ばす。

参考：文部科学省（平成24年）「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」

私の学校では、特別支援学級と通常の学級での「交流及び共同学習」が、なぜかうまくいかないのですが…



通常の学級、特別支援学級との間で、交流する児童生徒の目標や手立て、かかわり方を共有する必要があります。

当センターから【交流及び共同学習連携シート】の提案です！

通常の学級での学習を行う時の特別支援学級の児童生徒の実態や学習上の困難さが分かるようにしています。そして、どうすれば本人が分かるのか、支援員・介助員との連携も書き込むことで、通常の学級担任も見通しを持って、安心して授業の中で配慮や支援をすることができます。

次ページに記入例及び様式例があります。

生活	<p>・生活経験が豊富で、観察したことや発見したことを表現する力はあるが、気持ちののらないと活動が滞ることが多い。言葉でのやりとりだけでなく、実物や視覚的情報があることで活動の切り替えをすることができる場合がある。</p> <p>○今やること、次にやることなど活動の流れ、終わりの提示（介助員）</p>
----	---

実際に活用の際は、記入例及び様式例（ワード版）をご活用ください。

記入例

平成〇〇年度 小学4年生

交流予定について (○交流できる △一部交流できる ・今後交流を進めていきたい)

氏名 / 交流教科等	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	総合	特活
福島太郎		○		○	△	○	○	△	○	△

交流及び共同学習における本人の目標

◎身近な教師や友達に自分の思いを伝えながら、一緒に活動したり、自分でできることを増やしたりすることで、集団の中でも自分の力を発揮することができる。

☆児童生徒の実態と配慮事項について(社会、理科、音楽、体育、学活の例)

教科等	○学習における実態 ●予想される困難さ ◎配慮や支援
社会	○歴史については、とても興味を示し、意欲的に学習に取り組むことができる。 ●指示を受けて資料集などから必要な部分を探すことに時間がかかる。 ◎今見るべき場所を、個別に指さしもしくは隣の席の友達から教えてもらうとできる。
理科	○実験にとっても興味があり、意欲的に学習に取り組む。 ●実験が楽しすぎて、説明をよく聞かなかつたり、理解できない時がある。 ◎どんな実験をするか、もう一度、本人と確認すると確実に取り組むことができる。
音楽	○歌を歌うことが好きで、習った歌やアニメなどの歌やフレーズを口ずさむ。 ●鍵盤ハーモニカは、不器用なために、一斉指導のペースでは難しい時がある。 ◎鍵盤ハーモニカについては、確実な学習の定着を図るために、状況に応じて〇〇学級で個別に指導し、確実な定着と本人の“できる”気持ちを育む。発表等の時に交流する。
体育	○体を動かすことは好きで活動が分かれば楽しく活動することができる。 ●今までやったことがない活動に対しては取り組もうとしないことがある。 ◎新しい活動の場合は、事前に教えてもらうことで、〇〇学級で練習や見通しがもてるように指導する。
特活	○お楽しみ会や行事関係は一緒に活動することを楽しみにしている。 ●気持ちが盛り上がりすぎて、約束やルールを破ることがある。 ◎自立活動の時間で、対人関係やルール等を守りながら楽しく活動できるように指導していく。交流の際には、担任も一緒に行き、支援等をしながら本人が取り組めるようにする。
*あくまでも例です。 自由にワード版の様式例を活用して、自校化してください。	
その他	*例・答えを間違えた時に、パニックになることがある。「〇〇学級で、少し気持ちを落ち着かせよう」と声をかけてほしい。クールダウンしてから、本人と話し合い、学習のできる環境で継続した学習を行うようにする。

様式例

平成 年度 年生

交流予定について (○交流できる △一部交流できる ・今後交流を進めていきたい)

氏名 / 交流教科等										

交流及び共同学習における本人の目標

--

☆児童生徒の実態と配慮事項について

教科等	○学習における実態 ●予想される困難さ ◎配慮や支援
その他	